

初期セットアップ作業

次の手順では、ネットワークへの物理的な接続から基本的な各種のネットワーク設定まで、ACE XML アプライアンスの初期セットアップ方法を説明します。

インストールの準備

ACE XML Gateway アプライアンスまたは ACE XML Manager アプライアンスに対して行う基本的ネットワーク設定は、そのアプライアンスのオペレーティングシステム環境で行います。アプライアンスのシャーシポートはモデルにより様々なため、オペレーティングシステムにアクセスする手順も異なります。

アプライアンスのオペレーティングシステムにアクセスするには、モニタと USB キーボード、または KVM スイッチをそのアプライアンスに接続します。アプライアンスはシリアル コンソール接続もサポートします。この方法では、端末エミュレーションソフトウェアまたはダム端末を備えた PC を、シリアルケーブルでアプライアンスに接続できます。端末エミュレーションソフトウェアまたはダム端末は VT-100 互換でなければなりません。

注： アプライアンスへはシリアル接続でアクセスできますが、初期状態ではブート時のメッセージの出力先がシリアル出力ではなく、KVM 出力に設定されていることに注意してください。シリアルアクセスの詳細については「[シリアルケーブルによる接続](#)」を参照してください。

初期セットアップ手順は次のとおりです。

1. 梱包からまだアプライアンスを取り出していない場合は取り出してください。

注： アプライアンスの評価試用中である場合は、返却に備えて梱包物を保存しておいてください。また、梱包には多くの場合、アプライアンスの返却に利用できる返送用配送伝票が含まれています。

2. モニタとキーボードをアプライアンス背面に接続します。シリアルケーブルによる接続の詳細は「[シリアルケーブルによる接続](#)」を参照してください。
3. アプライアンスの電源接続口に電源コードを差し込みます。
4. アプライアンスのバックパネルにあるネットワーク インターフェイスポートにイーサネットケーブルを接続します。ラックマウント型のアプライアンスにはイーサネット インターフェイスポートが 5 つあります。バックパネルの上部左側の iLO (Integrated Lights-Out) コネクタ以外のコネクタのいずれかにケーブルを接続します。どのインターフェイスを使用しているかをメモしておいてください。

5. 電源ボタンを押してアプライアンスの電源を入れます。電源ボタンは Gateway-D ではフロントパネルに、ラックマウント型アプライアンスではバックパネルにあります。なお、旧型モデルでは、電源スイッチを使用するためにフェースパネルを外さなくてはならない場合があります。

システムが起動します。起動プロセスが終了すると、モニタにログインプロンプトが現れます。

シリアル ケーブルによる接続

アプライアンスを直接 KVM に接続する代わりに、シリアル ケーブルを使用してラップトップなどの PC の DB-9 型シリアル コネクタに接続しても、アプライアンスに接続できます。

ラップトップなどの PC 側では、Microsoft HyperTerminal などの VT-100 互換端末エミュレーション ソフトウェアを装備している必要があります。

この接続は次のように設定してください。

- ビット/秒 : 9600
- データビット : 8
- パリティ : None
- ストップビット : 1
- フロー制御 : None

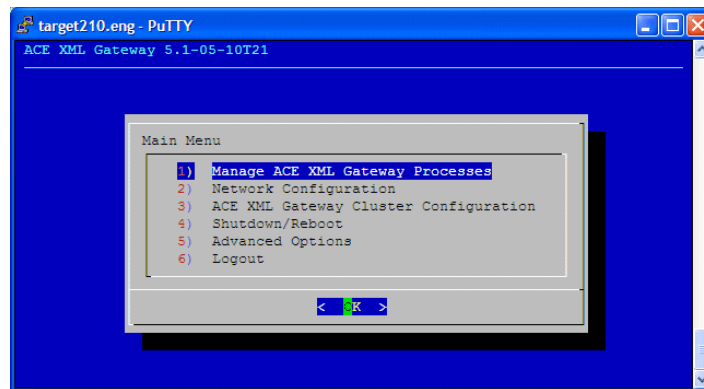
初期設定作業

アプライアンスに物理的接続を行ったあとに、基本的な設定を次のように行います。

1. アプライアンスのログイン プロンプトから root ユーザでログインします。パスワードは自分に割り当てられているものを使用してください。root のパスワードがわからない場合は、サポート担当者に問い合わせてください。
2. デフォルトのパスワードを使用してログインすると、パスワードを変更するように求められます。その場合は次のように操作します。
 - a. **[OK]** をクリックするか、Enter キーを押します。
 - b. **Please enter the new root password** という表示が出たら、新しいパスワードを入力して **[OK]** をクリックします。
 - c. 次に現れた表示でパスワードを確認入力します。

アプライアンス管理インターフェイスのメイン メニューが表示されます。

図 5-1 コマンドライン シェルのメニュー



3. 2 番目の項目 [**Network Configuration**] を選択して [**OK**] をクリックします。

[**Network Configuration**] メニューが表示されます。

4. このメニューでネットワーク構成を次のように設定します。
 - a. 最初の項目 [**Hostname**] を選択して [**OK**] をクリックします。
 - b. ホスト名の画面で ACE XML Gateway の適正なホスト名の全体を入力します (xmlgate.example.com など)。入力を終えたら [**OK**] をクリックします。

再び [**Network Configuration**] メニューが表示されます。
 - c. [**IP Gateway**] を選択して、アプライアンスのネットワーク インターフェイスの接続先となるサブネットワークにおけるデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。入力を終えたら [**OK**] をクリックします。
 - d. [**Name Servers**] を選択して、利用しているネットワーク内の DNS サーバの IP アドレスを入力します。DNS サーバを 1 つ以上指定するには、複数の IP アドレスをスペースで区切って入力します。アプライアンスはリスト内で最初のサーバに問い合わせを行い、ネームサーバからの応答がない場合は以下順番に問い合わせを行います。入力を終えたら [**OK**] をクリックします。
 - e. デフォルトでは、アプライアンス上の物理ネットワーク インターフェイスが無効になっています。[**Network Configuration**] メニューでネットワーク ケーブルを差し込んだインターフェイスを **Interface eth0** などの識別子で選択します。

注： Gateway-D アプライアンスにはイーサネットポートが 1 つしかないため、インターフェイス メニューの選択肢が 1 つ (**Interface eth0**) しかありません。フルサイズのアプライアンスでは、各ネットワーク インターフェイスに対応するインターフェイスメニューが現れます。
 - f. ネットワーク インターフェイス メニューの最初の項目 [**enabled**] を選択します。

- g. アプライアンスの IP アドレスを入力して **[OK]** をクリックします。
 - h. その IP アドレスに対するネットワーク マスク (netmask) を入力します。
 - i. 次に現れる入力画面で、そのインターフェイスのイーサネット速度を選択して **[OK]** をクリックします。
 - j. **[Edit Static Routes]** 画面で **[Accept settings]** を選択して **[OK]** をクリックするか、**[Cancel]** を選択してやり直します。
 - k. **[Network Configuration]** メニューで **[Test Network Settings]** を選択します。設定した内容に対して、ACE XML Gateway がいくつかの基本的なネットワーク テストを実行して結果を報告します。
5. クラスタ構成の設定を行うように求められた場合は、今回だけ **[yes]** を選択して設定します (要求されなかった場合は、**[Main Menu]** で 3 番めのオプション **[ACE XML Gateway Cluster Configuration]** を選択してください)。
- a. Gateway-D を使用している場合は、**[Both Gateway and Manager]** オプションを選択してアプライアンスをスタンドアロン モードで動作させてください。このモードでは、アプライアンスが XML Gateway と XML Manager の両方の機能を持ちます (システムの評価試用を行う際に通常使用されるモードです)。

XML Gateway もしくは XML Manager として専用に利用する場合は、**[ACE XML Manager]** または **[ACE XML Gateway Cluster Member]** のいずれかの運用モードを選択してください。

- b. アプライアンスを ACE XML Gateway として動作するように選択した場合は、このアプライアンスを管理する ACE XML Manager のアドレスを指定してください。
- c. 要求された場合はアプライアンスのサービスを再起動して、設定変更を有効にします。その場合 **[yes]** を選択してください。
- d. アプライアンスを ACE XML Manager またはスタンドアロン マシンとして動作するように選択した場合は、ACE XML Manager の Web コンソールの、クラスタ数の追加または変更が必要という通知画面で **[OK]** をクリックします。

スタンドアロン マシンについては、自身のゲートウェイ インスタンスを管理するように Manager が設定済みです。XML Manager 機能のみのマシンについては、管理対象の XML Gateway を Web コンソールの **[Cluster Management]** ページで設定する必要があります。

作業はこれで完了です。この ACE XML Gateway は設定が終了して、使用する準備が整いました。シェル インターフェイスを終了するには、メインメニューで **[Logout]** を選択します。

アプライアンスのネットワーク設定が終了したら、モニタとキーボードまたはシリアル ケーブルを外してもかまいません。ブラウザを使用して、ACE XML Manager の Web コンソールをローカル ネットワーク上で利用できます。アプライアンスのオペレーティングシステム環境に再度アクセスする必要がある場合は、PuTTY などのリモート SSH クライアントを使用できます。